

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BO\_NC\_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)日本電産株式会社生産技術	階数	地上6F
建設地	京都府相楽郡精華町光台3丁目9番	構造	SRC造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	700人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年1月 予定	評価の実施日	2017年11月15日
敷地面積	27,129 m <sup>2</sup>	作成者	田原 正寛
建築面積	5,230 m <sup>2</sup>	確認日	2017年11月30日
延床面積	22,201 m <sup>2</sup>	確認者	金谷



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 88%  
③上記+②以外の 83%  
④上記+ 83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項	
<p><b>総合</b></p> <p>本施設は事務所・研究施設である。空地部分をできるだけ多く確保するとともに、騒音・振動の発生可能性がある設備を有する施設を別棟で分離し、周辺環境に影響しない位置に配置した。室内環境は施設利用者の業務環境に寄与することができるだけ自然光を取り入れるなどの配慮を行った。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>計画建物で研究される内容は多岐に渡り、その何れもが技術の向上を目指すものであるが、同時に省エネルギー化にも繋がっている。このため、計画建物で行われる活動そのものが地球環境の向上に寄与すると考える。</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>音環境、温熱環境等については事務所、各研究室ごとに部屋の特性によりきめ細かに環境条件を整えるよう配慮した。空気質環境については建築基準法規制対象外となる建築材料の使用を極力使用しないよう努力した。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>各室について可能な限り天井高を確保するとともに大規模な吹き抜けを設けるなど、空間的ゆりの確保に注力した。また、設備の更新をできるだけ簡易に行えるよう工夫した。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>建物外皮は省エネルギーに寄与する材料を選定した。自然エネルギーの利用については、食堂や大空間の室を中心に天井や外壁面からの自然光の取り入れを計画するとともに太陽光による発電設備を設けた。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>可能な限り非再生性資源の使用量削減に努めるとともに地域産木材の利用に取り組んだ。</p>
<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>配慮に関しては特に周辺に所在する住宅地への騒音・振動に配慮した。また、各建物を敷地境界からできるだけ離す計画とし、近隣への配慮を行った。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>大規模な研究施設等が集積する地域であるため、敷地周囲の緑化計画は地域の景観に寄与するよう工夫した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される